

生涯学習社会における携帯電話ホームページ制作の 教育法に関する研究

著者	山本 正八
雑誌名	生涯学習研究と実践 : 北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要
巻	7
ページ	81-96
発行年	2004-12-20
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00002308/

生涯学習社会における携帯電話ホームページ制作の 教育法に関する研究

A Research on the Teaching Methods of the Creation of a Portable Telephone Homepage in Lifelong Learning Society

山 本 正 八

YAMAMOTO, Masaya

I 目的と課題

1. 研究の目的

1. 1 研究の背景

大学で教育する携帯電話ホームページ制作について考える前に、市民がそのシステムを利用する携帯電話ホームページとはどのようなものであるかを考えてみる。具体的な例としては、携帯電話ホームページでバスを利用している乗客の停留所の時刻表を検索することが考えられる。現状では、一部の地域を除いて、バス会社から無料でもらえる紙の時刻表を見るか、バスの停留所に行ってから停留所に掲示してある時刻表を見るかのどちらかである。この現状を改善するのが、携帯電話ホームページによる時刻表検索システムである。現在、このようなシステムが乗客に広く普及していないのは、バス会社の制作依頼者も制作会社の制作者も、図1に示したような生涯学習社会における携帯電話ホームページ制作システムの仕組みを理解していないからではないだろうか。このシステムの仕組みとは、携帯電話ホームページの制作は、依頼されるバス会社のことではなく、その先の利用者のことをよく考えてシステムを制作しなければならないということである。

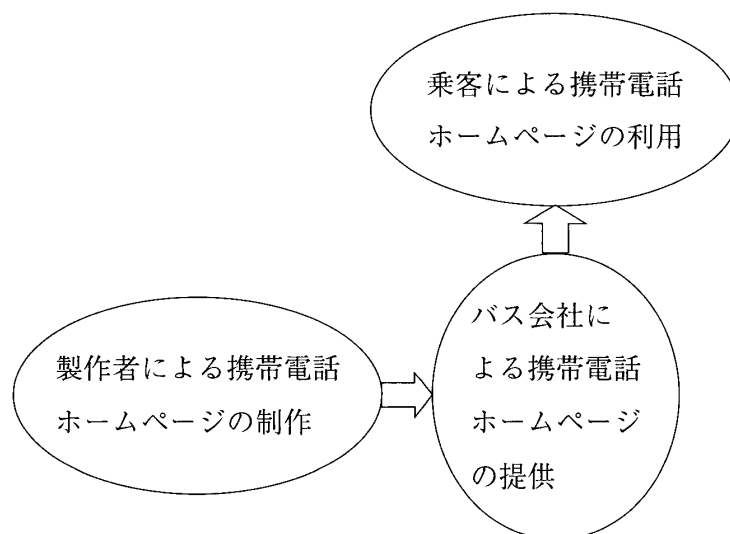


図1 生涯学習社会における携帯電話ホームページ制作システム

1. 2 研究の目的

本研究の目的は、携帯電話ホームページを利用する住民を支援するような携帯電話ホームページ制作の教育法について明確にすることである。何のために生涯学習社会における携帯電話ホームページ制作の教育法が必要なのだろうか。図1における現状の携帯電話ホームページ制作システムがうまく作用していないということは、携帯電話ホームページの制作者が本当の携帯電話ホームページの制作方法を理解していないということなのである。大学卒業後にそれを理解させるには遅すぎるというか、どこにもそのような教育をしているところはないので、大学教育においてこそ生涯学習の必要性を踏まえた携帯電話ホームページの制作方法について教育しなければならないのである。そうするためには、生涯学習支援者としての大学教員が、携帯電話ホームページを利用するのを支援するような携帯電話ホームページの制作の教育法を知らなければならないのである。

2 研究の課題

図2に示したように、研究の課題は、最初に、携帯電話ホームページ未利用者を携帯電話ホームページ利用者にする携帯電話ホームページ利用システムの教育法を確定することである。次に、携帯電話ホームページ利用システムにシステムを提供する携帯電話ホームページ提供システムを確定した後、携帯電話ホームページ制作システムの教育法を確定することである。携帯電話ホームページを制作するのに、ただ単に携帯電話ホームページ制作システムを教育するだけでは部分的な教育に留まってしまう。生涯学習者である市民のための携帯電話ホームページ利用システムについても教育することが本当の教育である。これが生涯学習社会における携帯電話ホームページ制作の教育法である。

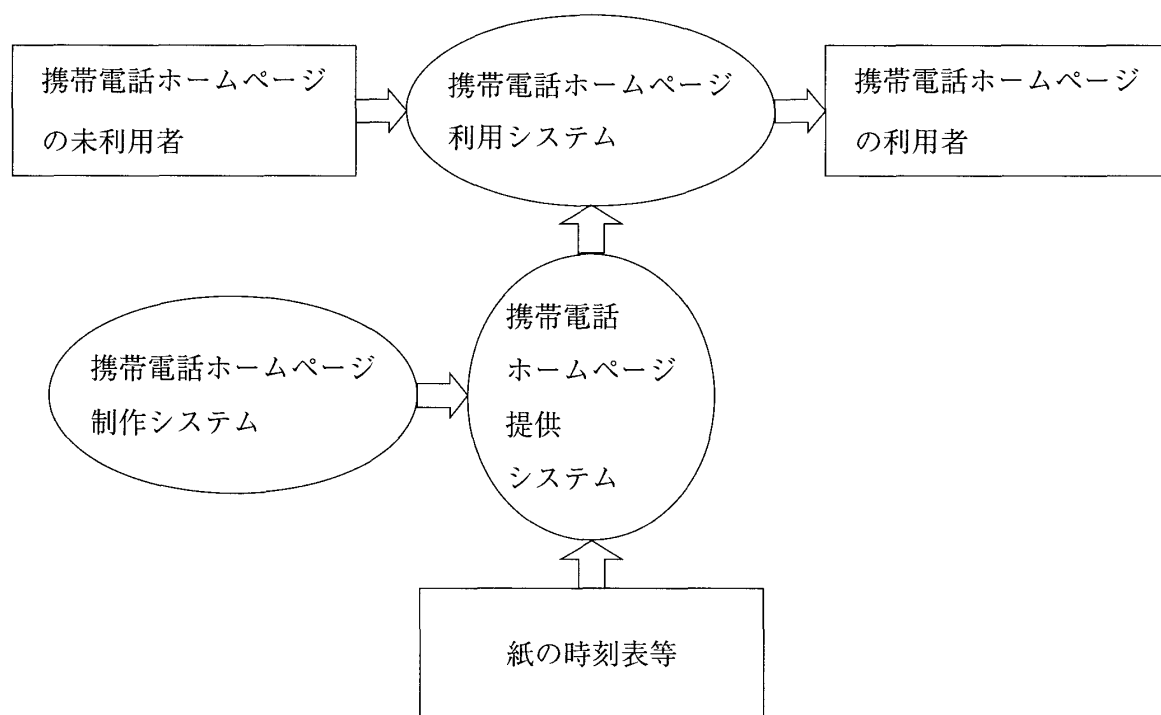


図2 携帯電話ホームページ制作システム

Ⅱ 研究成果

1 携帯電話ホームページ制作の教育法における手順

1. 1 携帯電話ホームページ制作の教育法における手順

研究成果としての携帯電話ホームページ制作の教育法の手順を図3に示した。第1段階で携帯電話ホームページ利用システムを確定した後、第2段階で携帯電話ホームページ制作システムを確定する。これは最初に携帯電話ホームページの利用者の利用方法を確定した後、次にその利用方法を踏まえた上で、携帯電話ホームページの制作者の制作方法を確定するということである。第1段階として利用者のことを考えるように教える方法は、今までの教育法には無い新しい教育法である。第1段階では、第1工程として携帯電話ホームページ利用者の目標を設定した後、第2工程として携帯電話ホームページ利用者の課題を確定する。これは、最初に利用者が何のために携帯電話ホームページを利用するのかという目標を設定した後、次にその目標を踏まえた上で、第2工程として利用者が携帯電話ホームページで何をするのかという課題を確定するということである。第2段階では、第1工程として携帯電話ホームページ提供者の課題を確定した後、第2工程として携帯電話ホームページ制作者の解決策を確定する。これは、最初に利用者が携帯電話ホームページを利用できるようにするためには、提供者が何をすればよいかという課題を確定した後、次にその課題を踏まえた上で、第2工程として製作者がどのようにして携帯電話ホームページを制作すればよいかという解決策を確定するということである。これが新しい教育法の全体像であり、生涯学習社会では利用者が生涯学習者であり、提供者、制作者が生涯学習支援者となる。

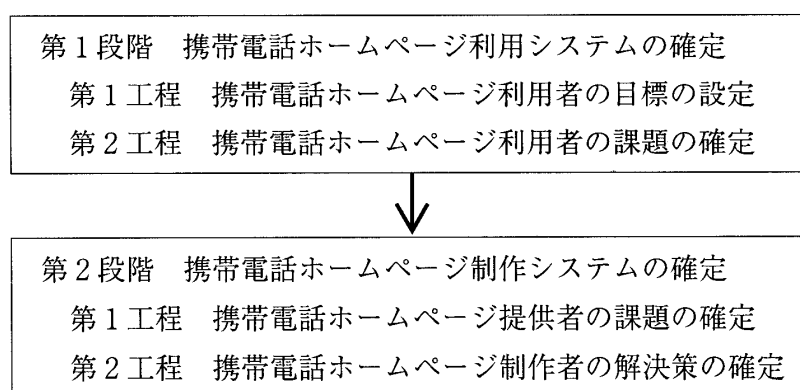


図3 携帯電話ホームページ制作の教育法の手順

図3に示したように、携帯電話ホームページ制作の教育法は、これからの大学教育の方向性を示しているといえるのではないだろうか。大学教育は、ただ単に知識や技術を教育して経験を積みせればよいのではないのである。その仕事は何のためにしているのか、誰のためにしているのかという目標を設定することが大事なのである。この携帯電話ホームページ制作の教育法を大学の教員が習得することにより、その授業を受けた学生が卒業後、企業人として世の中の役に立つ携帯電話ホームページ利用システムを制作することができるようになるのである。

1. 2 携帯電話ホームページ制作の教育法の手順の説明

図3における携帯電話ホームページ制作の教育法の手順について説明する。図3をよりわかりやすく示したのが図4である。第1段階としての携帯電話ホームページ利用システムの確定では、第1工程として、利用者が現状に対しての生きる力を育む目標を設定してあげる。次に、第2工程として、その利用者の目標を達成するためには利用者が何をすればよいかという利用者の課題を確定してあげる。第2段階としての携帯電話ホームページ制作システムの確定では、第1工程として、利用者がその課題を達成するためには、提供者が何をすればよいかという提供者の課題を策定する。次に、第2工程として、その制作者の課題はどのようにしたら実現できるのかという制作者の解決策を策定する。これによって、利用者の目標を達成するための制作者としての解決策が策定できるのである。

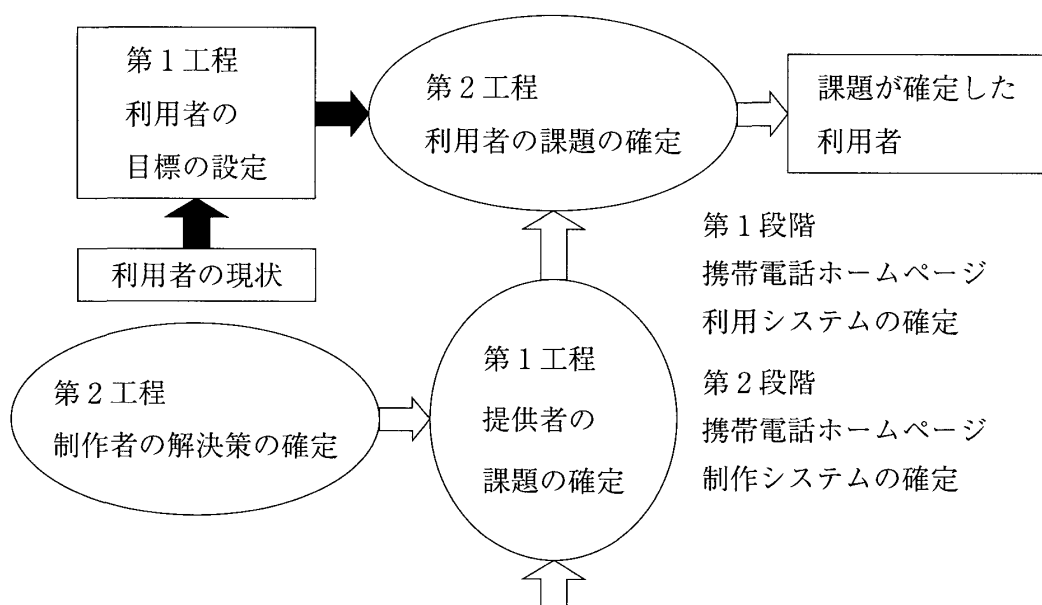


図4 携帯電話ホームページ制作の教育法の手順

図4では、最初に、携帯電話ホームページ利用者の目標を設定するが、そのためには利用者の現状を把握して、次に、その現状を利用者の目標に向かって上げていけばよいことがわかる。利用者の目標を達成するためには、利用者は課題を遂行しなければならないが、そのためには、矢印で示されている携帯電話ホームページ提供者がどうしても必要であることがよくわかる。この提供者は、自分が変わらなくて利用者を変えているのである。しかし、この提供者は、本当の提供者となるためには、提供者の課題を確定して、自分を変えていかなければならないのである。大切なのはこの点である。提供者が変わるから利用者が変わるのである。提供者がこのことに気が付くかどうかである。提供者がこのことに気が付いた時に、自分を提供者となるために変えるには、制作者にどのように制作してもらったらよいかという解決策が見えてくるのである。携帯電話ホームページ制作システムの教育法で大事なことはこのことなのである。

2 第1段階 携帯電話ホームページ利用システムの確定

2. 1 第1工程 携帯電話ホームページ利用者の目標の設定

2. 1. 1 携帯電話ホームページ利用者の目標の設定の考え方

最初に、携帯電話ホームページ利用者の生きる力を育む目標を設定するということは、利用者の生きる力を育む目的を設定してから、その目的の具体的な達成値としての目標値を設定するということである。最初に、利用者が何のために携帯電話ホームページを利用するのかという目的を示してあげることである。図5に、利用者の目的の見つけ方を示した。目的を見つけるということは、利用者の現状の問題を解決してあげることである。

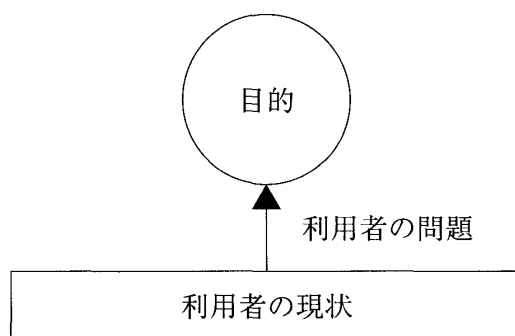


図5 携帯電話ホームページ利用者の目的の見つけ方

この図5では、携帯電話ホームページ利用者の現状と目的との差が問題になっている。つまり利用者の現状が目的に到達していないことが問題になるのである。よって利用者の現状における問題がわかれば、それを反転することにより目的を求めることができるのである。大事なことは、利用者の現状をしっかりと把握するということである。

利用者の本当の目的が設定されたら、次に、図6に示したように、利用者の目的の指標として、利用者の現状値に対する目標値を設定することである。例えば、時刻表の検索では、現状の紙の時刻表を検索するのと同じようにメニューを検索するだけにしなければならないということである。パソコンでキーボードを使用する場合のように、携帯電話で停留所名等を入力させるようなことをさせてはいけないのである。

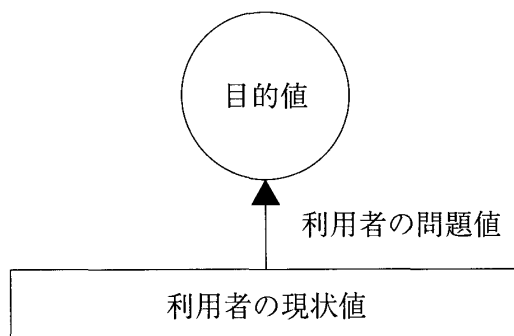


図6 携帯電話ホームページ利用者の目的の指標の設定

2. 1. 2 携帯電話ホームページ利用者の目的の設定

図7に、携帯電話ホームページ利用者の要望から目的を見つけた後、本当の目的を見つけるための流れを示した。利用者が現在困っていることとか悩んでいること、このようにしたいということ、このようになりたいということがある場合、携帯電話ホームページ制作者が自分一人または制作者のグループによるブレインストーミングで、それを肯定的な要望と否定的な要望とに分ける。次に、肯定的な要望はそのまま要望機能とするが、否定的な要望は、反転して肯定的な希望や要望に変更して要望機能とする。更に類似な機能をKJ法で分類する。その後、分類した機能は何のためにそうするのかということを考えることによって、より上方の機能である目的を見つける。最高位の目的まで展開できたら、今度は逆に目的が利用者の要望に合致しているかどうかということを考えて下方に向かって戻り、本当の目的を確定する。次に、本当の目的の指標を設定する。指標を設定するということは、問題となっていて目的が達成できていない現状値と、目的が達成できたとする目標値を設定することである。目標とは具体的でなければ達成できないのである。

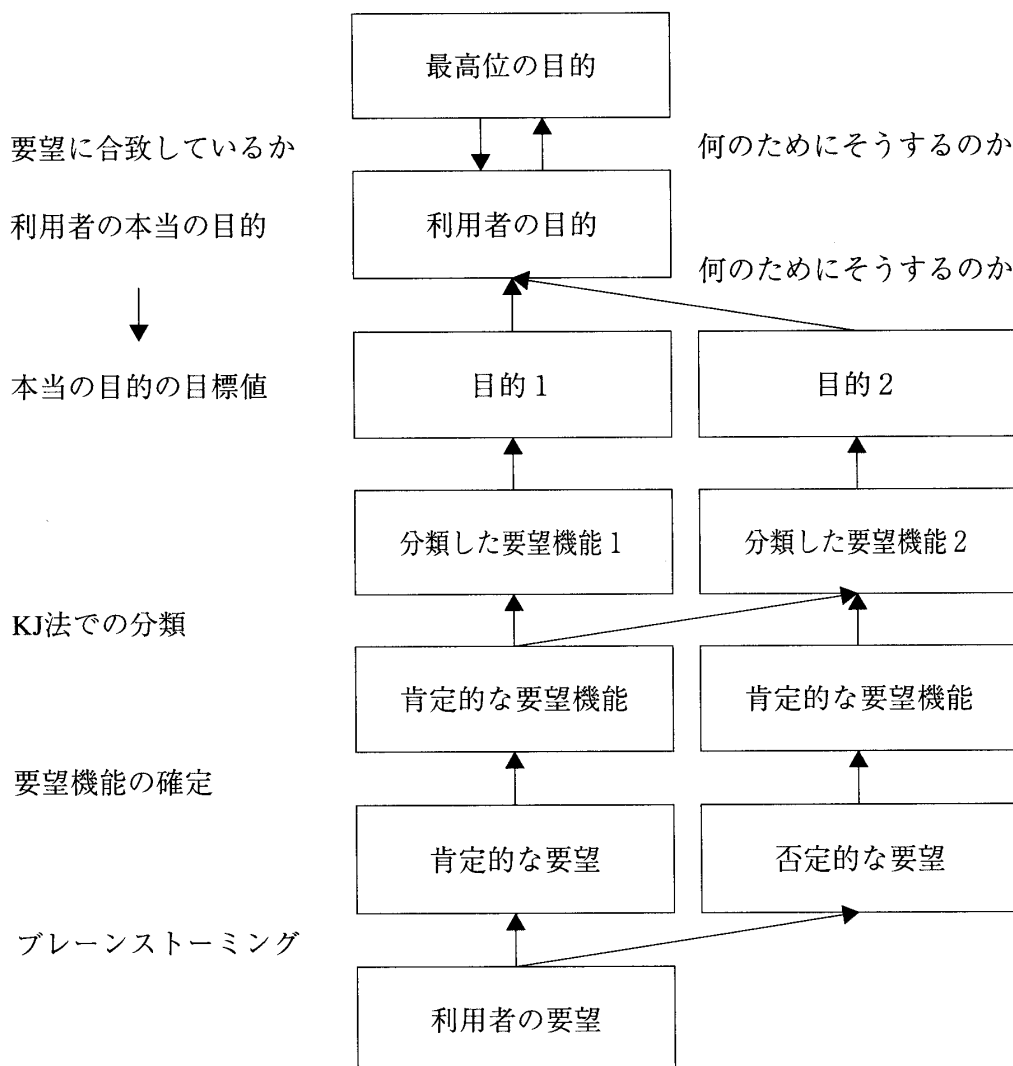


図7 携帯電話ホームページ利用者の目的の確定の流れ

2. 2 第2工程 携帯電話ホームページ利用者の課題の確定

2. 2. 1 携帯電話ホームページ利用者の課題の全体像の把握

図8に示したように、携帯電話ホームページ利用者の課題を確定するために、全体像を把握して何をするべきかを視覚的に捉えるようにした。利用者の本当の目的を確認した後、最初に、課題Ⅱに利用者の課題を確定する。次に、その本当の目的を達成するには利用者の本当の入力をどこにすればよいのかを明確にした後、課題Ⅰに本当の入力からの新しい課題を自動的に追加する。更に、その本当の目的を達成するには利用者の本当の出力をどこにすればよいのかを明確にした後、課題Ⅲに本当の出力に至る新しい課題を自動的に追加する。最後に本当の入力から本当の出力までのすべての課題の中で、分割できる課題を見つけて分割する。その後、連続した課題により本当の目的が達成できるかどうかを確認する。

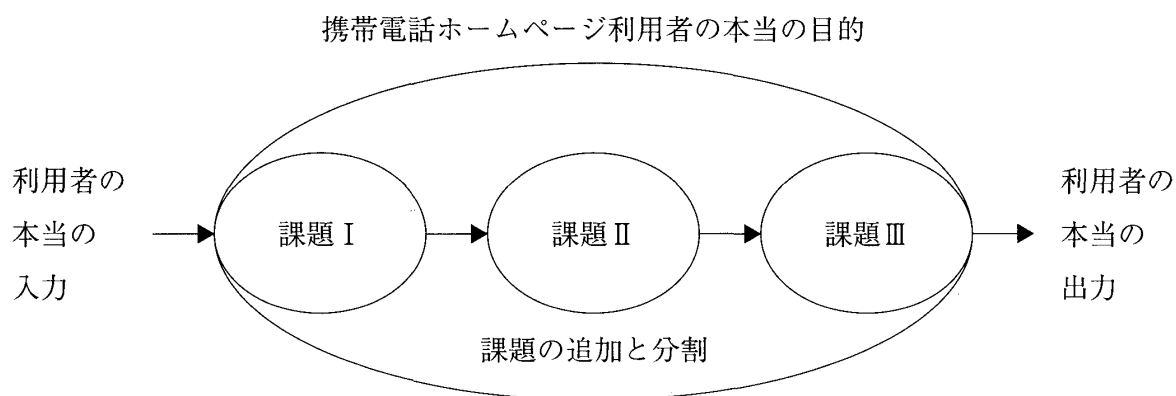


図8 携帯電話ホームページ利用者の課題の全体像の把握

課題Ⅱを、札幌市民が寒いバスの停留所に行ってから時刻表を見なくてもよいように、自宅で携帯電話のホームページによって時刻表を検索することだとする。最初に、携帯電話ホームページ開発者は、携帯電話ホームページ利用者が本当の目的を達成するためには何をすればよいかわという課題Ⅱを確定してあげることである。その場合に、確定する課題は、現状値に対する目標値として具体化しなければならない。この具体的な数値を利用者に示さないと、目的を達成するための課題としての行動が明確にならなくなってしまうのである。その課題Ⅱを達成するために、前段階として行わなければならない課題Ⅰがある筈である。そうすると前段階として、どこかに携帯電話の時刻表を検索するホームページがあることを知っていなければならないのである。大事なことは、開発者がこの前段階の課題Ⅰを見つけてあげることである。次に、課題Ⅱを達成するために後段階として行わなければならない課題Ⅲがある筈である。利用者が時刻表を検索できた後は、後段階として今後いつでもすぐ利用できるように、検索したホームページの時刻表を登録しておくことである。大事なことは、開発者がこの後段階のⅢを見つけてあげることである。このように、携帯電話のホームページの開発を教育する場合には、ただシステムの開発方法を教育するのではなく、システムの利用者の行動をよく理解することを教育することが非常に大事なことである。

2. 2. 2 携帯電話ホームページ利用者の入力課題の確定

携帯電話ホームページ利用者の入力課題の確定方法を図9に示した。最初に、入力の上方展開では、入力1、入力2、入力3というようにより拡大した範囲の入力を次々に考えていくと、最後に最高位の入力に到達する。今度は逆に、入力が本当の目的に合致しているかということを考えて下方に向かって戻っていき、本当の入力を確定する。入力3が本当の入力として確定すると、入力3と入力2との間に課題1が確定する。同様にして、入力2と入力1との間に課題2が確定し、入力1と利用者の入力との間に課題3が確定する。元々ある生涯学習者の課題Ⅱは課題4となる。

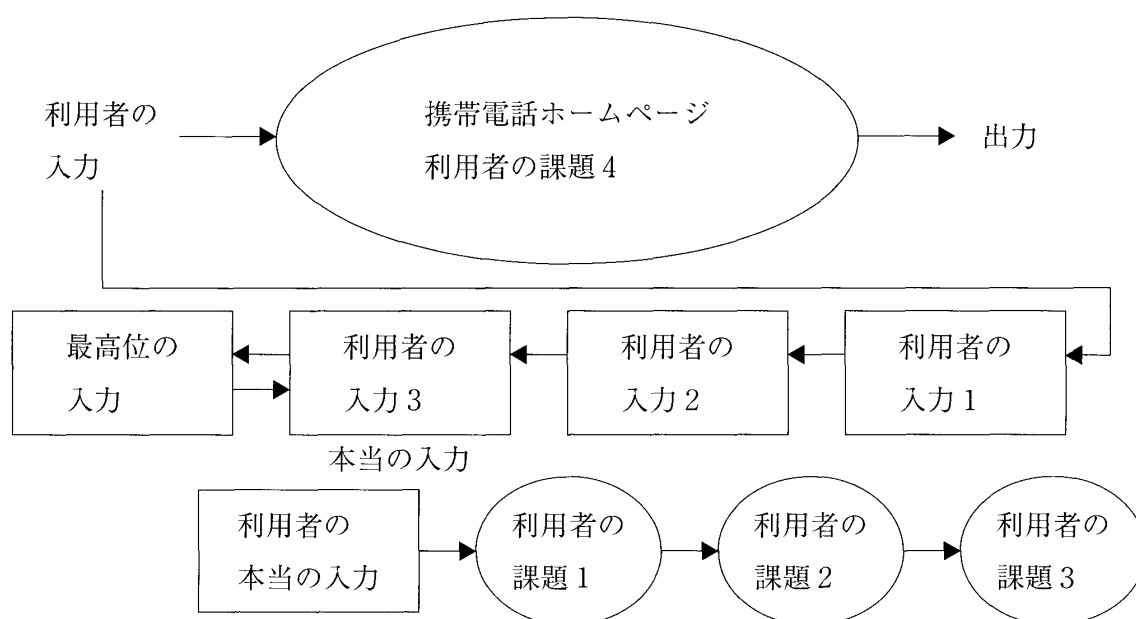


図9 携帯電話ホームページ利用者の入力課題の確定

携帯電話ホームページ利用者の課題4を、札幌市民が寒いバスの停留所に行ってから時刻表を見なくてもよいように、自宅で携帯電話のホームページによって時刻表を検索することだとする。利用者の入力は、自宅で携帯電話のホームページによってバスの停留所の時刻表を検索しようとしている札幌市民である。入力1は、携帯電話のホームページによってバスの停留所の時刻表を検索するソフトウェアがあることを知った札幌市民である。入力2は、寒いバスの停留所で時刻表を見てから次のバスが来るのを待っている札幌市民である。入力3は、停留所で時刻表を見てバスを待っている札幌近郊住民である。最高位の入力は、停留所で時刻表を見てバスを待っている北海道民とした。本当の入力は北海道民では範囲が広すぎるので、札幌近郊住民か札幌市民ということになる。札幌市民に限定することもないので札幌近郊住民とした。課題1と課題2は、札幌市民及び札幌近郊住民が、バスの車内の案内版によって携帯電話のホームページでバスの停留所の時刻表を検索できることを知るとなる。課題3は、札幌市民及び札幌近郊住民が、携帯電話のホームページでバスの停留所の時刻表を検索できるソフトウェアが利用できるように会員登録をするとなる。

2. 2. 3 携帯電話ホームページ利用者の出力課題の確定

携帯電話ホームページ利用者の出力課題の確定方法を図10に示した。最初に、出力の下方展開では、出力1、出力2、出力3というようにより限定した範囲の出力を次々に考えていくと、最後に最低位の出力に到達する。今度は逆に、出力が本当の目的に合致しているかということを考えて上方に向かって戻っていき、本当の出力を確定する。出力3が本当の出力として確定すると、元々ある利用者の課題は課題4であるので、利用者の出力と出力1との間に課題5が確定する。同様にして、出力1と出力2との間に課題6が確定し、出力2と出力3との間に課題7が確定する。

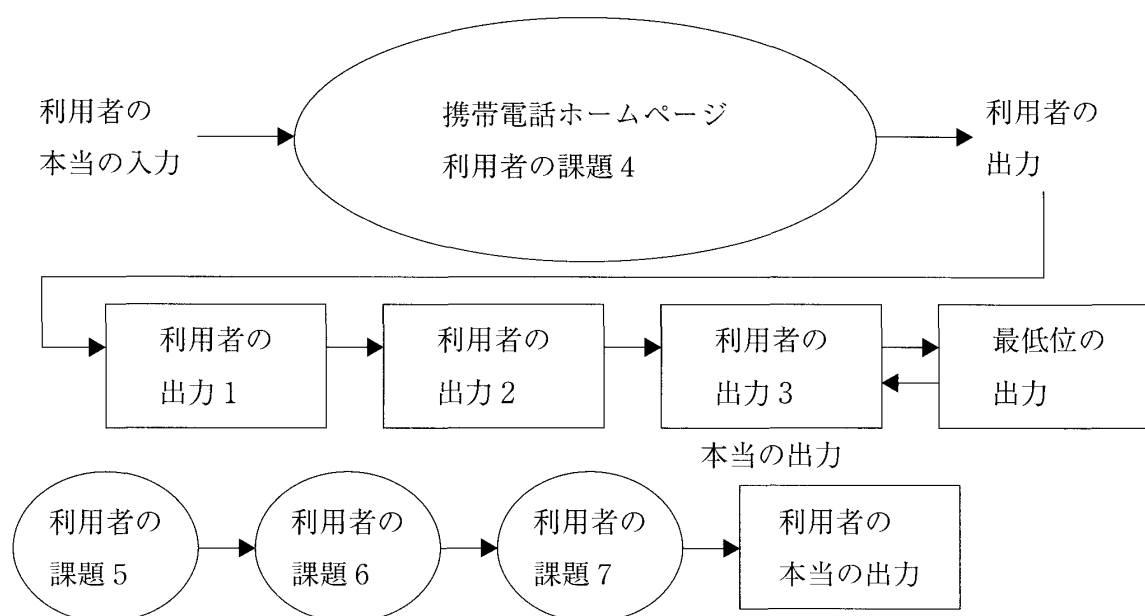


図10 携帯電話ホームページ利用者の出力課題の確定

携帯電話ホームページ利用者の課題4を、寒いバスの停留所に行ってから時刻表を見なくてもよいように、携帯電話のホームページによって時刻表を検索することだとする。利用者の出力は、バスの停留所の時刻表を検索した札幌近郊住民である。出力1は、検索したバスの停留所の時刻表を次回からすぐ画面に表示できるように登録した札幌近郊住民である。出力2は、携帯電話のホームページによってバス会社からの連絡事項を見るようになった札幌近郊住民である。出力3は、携帯電話のホームページからバス会社に質問をするようになった札幌近郊住民である。最低位の出力は、携帯電話で電子メールやチャットをするようになったバスの乗客の札幌近郊住民とした。本当の出力は、電子メールやチャットをするのでは範囲が広すぎるので、出力3の携帯電話のホームページを介してバス会社との間でコミュニケーションが取れるようになった札幌近郊住民とした。課題5は、検索したバスの停留所の時刻表を次回からすぐ画面に表示できるように登録するとした。課題6は、携帯電話のホームページでバス会社からの連絡事項を見るようになるとした。課題7は、携帯電話のホームページでバス会社との間でコミュニケーションが取れるようになるとした。

3 第2段階 携帯電話ホームページ制作システムの確定

3.1 第1工程 携帯電話ホームページ提供者の課題の確定

3.1.1 携帯電話ホームページ提供者の課題の確定の考え方

図11に示したように、携帯電話ホームページ提供者の課題を確定するために、全体像を把握して何をすべきかを視覚的に捉えるようにした。携帯電話ホームページ利用者が課題を達成するためには、提供者が何をすべきかという課題を策定する。この提供者の課題を遂行することによって利用者の課題が遂行されるのである。利用者の課題の中に提供者の課題出力があり、この提供者の課題出力があるからこそ利用者が本当の入力から本当の出力に変換する課題を遂行することができるのである。提供者の課題出力こそが利用者の課題を本当の入力から本当の出力に変換させるための大事な要素である。この提供者の課題出力を送り出す元になっているのが提供者の課題入力である。提供者の課題の確定は、利用者の課題に対して提供者が何をすべきかを定めることである。それには、提供者の課題入力を課題出力に変換するには何をすればよいかを考えることである。ここで、提供者の課題とは何かということをもう一度考えてみよう。提供者の課題とは、利用者が本当の目的を達成しようとして課題を遂行しようとする利用者の行動を支援してあげることである。この提供者の課題の支援がなければ、利用者は課題を遂行することができないのである。提供者の課題は、実際の課題の一部である。実際には、この課題が横に幾つもあるのである。利用者の入力が利用者の本当の入力になり、利用者の出力が利用者の本当の出力になれば、必ず利用者の課題は追加され複数になるのである。そうすると、利用者の課題を支援する提供者の課題も複数になるのである。

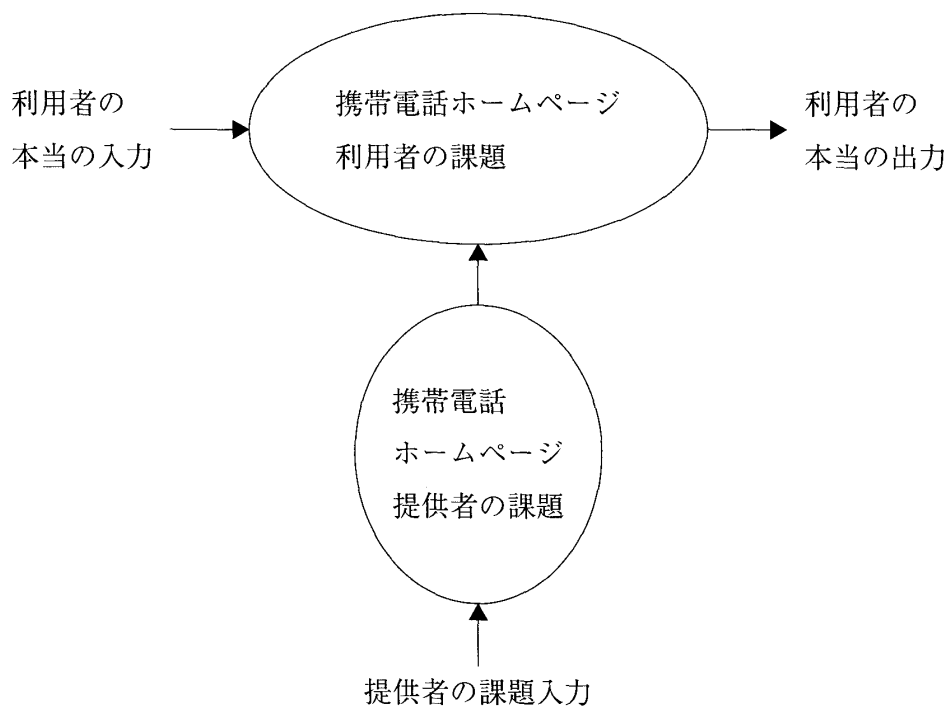


図11 携帯電話ホームページ提供者の課題の確定の考え方

3. 1. 2 携帯電話ホームページ提供者の入力課題の確定

図11における携帯電話ホームページ提供者の課題の確定はどのようにすればよいのだろうか。それを図12に示した。提供者の課題入力とは提供者の課題システムの境界線上の入口である。提供者の課題入力を確定するためには、提供者の課題入力の上方展開を行う。提供者の課題入力の上方展開では、課題入力1、課題入力2、課題入力3というように、より拡大した範囲の提供者の課題入力を次々に考えていく。そうすると、最後に最高位の課題入力に到達する。今度は逆に、提供者の課題入力を利用者の本当の目的に合致しているかということを考えて下方に向かって戻っていくと、提供者の本当の課題入力が確定できるのである。図12の下方に、提供者の課題入力と課題入力との間を、提供者の課題として示した。提供者の課題入力3が本当の課題入力として確定すると、課題入力3と課題入力2との間に提供者の課題1を確定することができる。同様にして、提供者の課題入力2と課題入力1との間に、提供者の課題2を確定する。提供者の課題入力1と課題入力との間に、提供者の課題3を確定する。これで提供者の課題が確定したことになる。

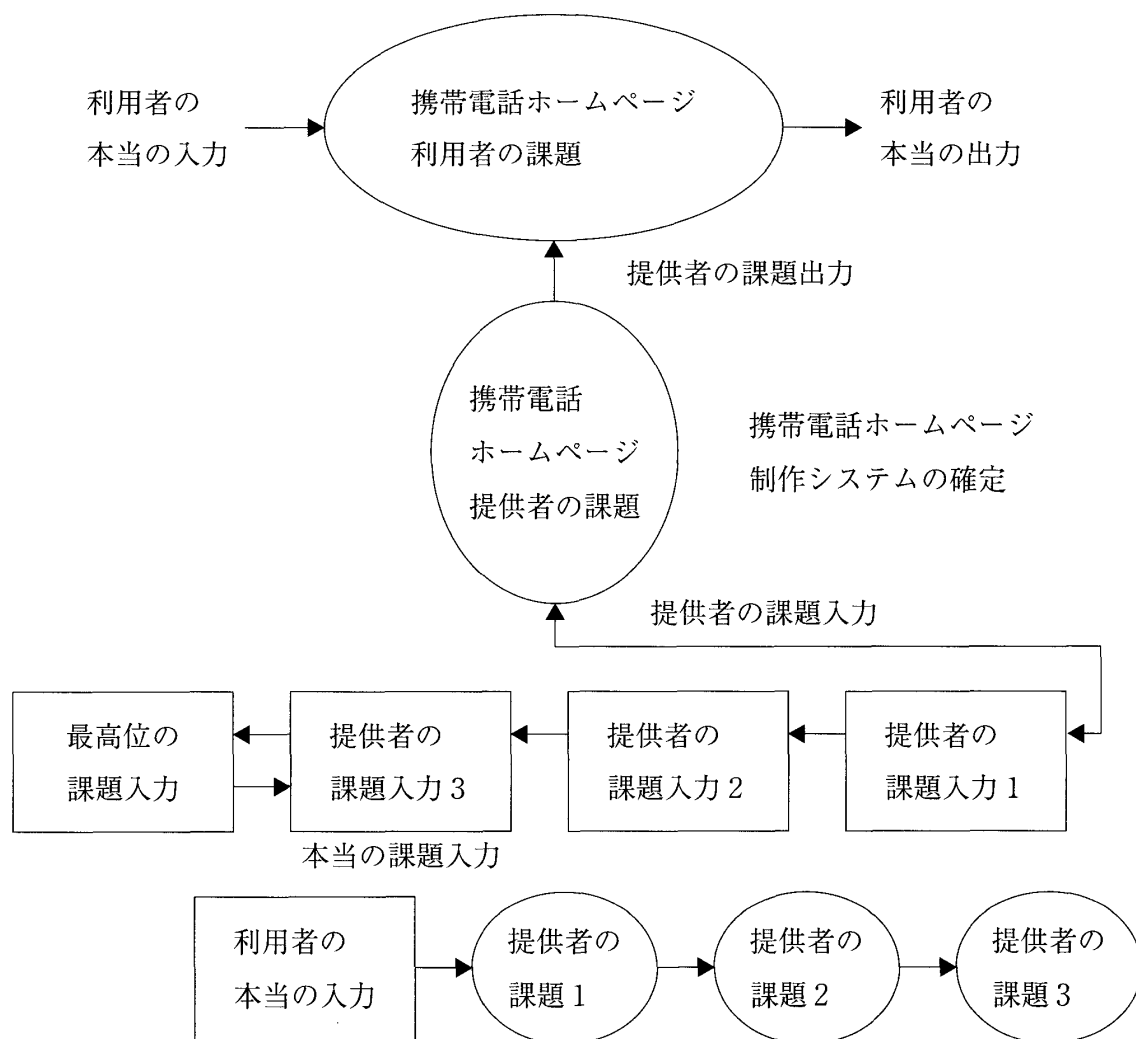


図12 携帯電話ホームページ提供者の課題の確定

携帯電話ホームページ利用者の課題を、札幌市民が寒いバスの停留所に行ってから時刻表を見なくてもよいように、自宅で携帯電話のホームページによって時刻表を検索することだとする。そうすると、携帯電話ホームページ提供者の課題出力は、時刻表が検索できる携帯電話ホームページである。携帯電話ホームページ提供者の課題は、携帯電話ホームページで時刻表を検索できるようにすることである。提供者の課題入力1は、本稼動できる時刻表検索プログラムである。まとめると、課題入力1の本稼動できる時刻表検索プログラムがあるからこそ、課題の携帯電話ホームページで時刻表を検索できるようにすることができて、課題出力の時刻表が検索できる携帯電話ホームページを提供できるのである。次に大事なことは、この本稼動できる時刻表検索プログラムはどこから持って来たのであろうかという課題入力を見つけることである。この考え方は、提供者にとってみれば当然のことであるが、この考え方を理論的に裏付けた結果が提供者の課題入力1の確定になるのである。そうすると、本稼動する前には試験に合格しなければならないので、提供者の課題入力2は、試験に合格した時刻表検索プログラムである。試験に合格する前には制作が完了していなければならないので、提供者の課題入力3は、制作が完了した時刻表検索プログラムである。制作が完了する前には制作が承認されていなければならないので、提供者の課題入力4は、制作が承認された携帯電話ホームページでの時刻表検索企画である。制作が承認される前には制作の企画がある筈なので、提供者の課題入力5は、携帯電話ホームページでの時刻表検索企画となる。これ以上の課題入力は考えられないので、この携帯電話ホームページでの時刻表検索企画が最高位の課題入力となる。今度は逆に、提供者の課題入力1が利用者の本当の目的に合致しているかということを考えて下方に向かって戻っていくが、最高位の課題入力である携帯電話ホームページでの時刻表検索企画は経営部門での検討事項と考えられるので、課題入力4の制作が承認された携帯電話ホームページでの時刻表検索企画を本当の課題入力とした。課題入力を確定していくと、課題入力4と課題入力3との間の課題1は、承認された携帯電話ホームページでの時刻表検索企画を基にして携帯電話ホームページでの時刻表検索プログラムの制作を完了するとなる。課題入力3と課題入力2との間の課題2は、制作が完了した携帯電話ホームページでの時刻表検索プログラムを試験して試験に合格するとなる。課題入力2と課題入力1との間の課題3は、試験に合格した携帯電話ホームページの時刻表検索プログラムを本稼動できるようにするとなる。全体をまとめると次のようになる。課題1は、承認された携帯電話ホームページでの時刻表検索企画を基にして携帯電話ホームページでの時刻表検索プログラムの制作を完了するとなる。課題2は、制作が完了した携帯電話ホームページでの時刻表検索プログラムを試験して試験に合格するとなる。課題3は、試験に合格した携帯電話ホームページの時刻表検索プログラムを本稼動できるようにするとなる。この課題3が、携帯電話ホームページ提供者の課題である携帯電話ホームページを本稼動して時刻表が検索できるようにするにつなげていく。そうすると、課題出力が時刻表を検索できる携帯電話ホームページであるので、携帯電話ホームページ利用者の課題である携帯電話のホームページによって時刻表を検索することができるようになる。

3. 2 第2工程 携帯電話ホームページ制作者の解決策の確定

3. 2. 1 携帯電話ホームページ制作者の解決策の確定

提供者の課題をどのようにしたら実現できるのかという制作者の課題の解決策を確定することであるが、それは、提供者の課題の一つ一つを実現するためには、制作者がどのようにすればよいのかということを確認することである。この提供者の課題に対しての制作者の解決策を実行することによって、その提供者の課題が遂行されるのである。提供者の課題が遂行されることによって、利用者の課題を遂行することができるのであり、その利用者の課題が遂行されることによって、利用者は生きる力を育むことができるようになるのである。制作者の解決策の確定の考え方を図13に示した。利用者の課題の中に提供者の課題出力があり、提供者の課題の中に制作者の解決策出力がある。この制作者の解決策出力によって、提供者の課題入力から提供者の課題1、提供者の課題2を経由して提供者の課題出力に変換する提供者の課題を遂行することができるのである。制作者の解決策の確定とは、制作者の解決策出力を送り出す方法を考えることである。

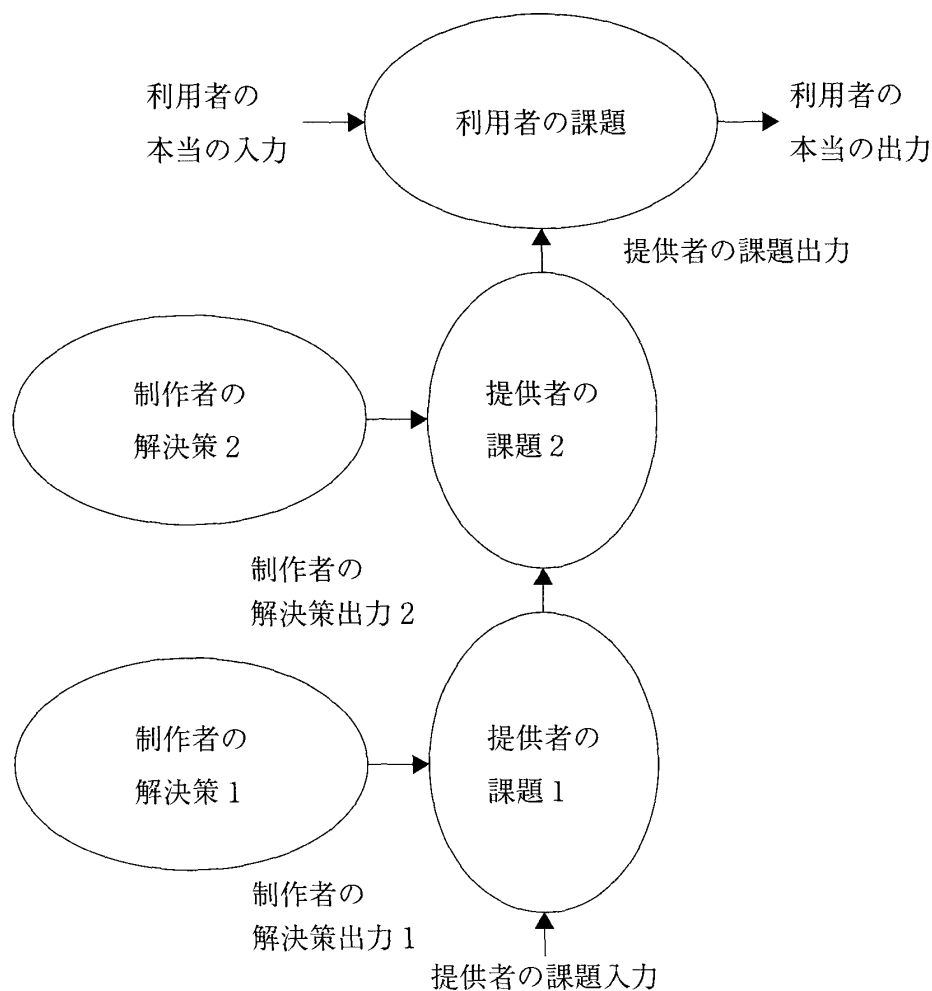


図13 携帯電話ホームページ制作者の解決策の確定

3. 2. 2 携帯電話ホームページ制作者の解決策の分割

制作者の解決策が確定したら、制作者の解決策は特定の通過点によって分割する必要がある。制作者の解決策の分割の考え方を図14に示した。分割するには、最初に制作者の解決策の中にある特定の通過点を発見する。次に発見した特定の通過点によって制作者の解決策を分割して連続した解決策にする。なぜ制作者の解決策を分割しなければならないのだろうか。その理由は、確定した制作者の解決策が複数の機能から成っている場合が多く、分割することにより単数の機能が連続した解決策になり、制作者の解決策が遂行し易くなるからである。複数の機能から成っている解決策を単数の機能が連続した解決策にすることにより、解決策の処理手順がより具体的になり解決策が遂行し易くなるのである。更に、単数の機能になれば、必ず手作業による解決策とコンピュータ処理による解決策のどちらかの解決策になるのである。このコンピュータ処理による解決策が見つかることにより、コンピュータの活用がここから開始されるのである。言い換えれば、解決策の分割はコンピュータ処理による解決策を発見するためであると言っても言い過ぎではないのである。解決策をできるだけコンピュータで処理することは、費用対効果の面からも大事なことである。

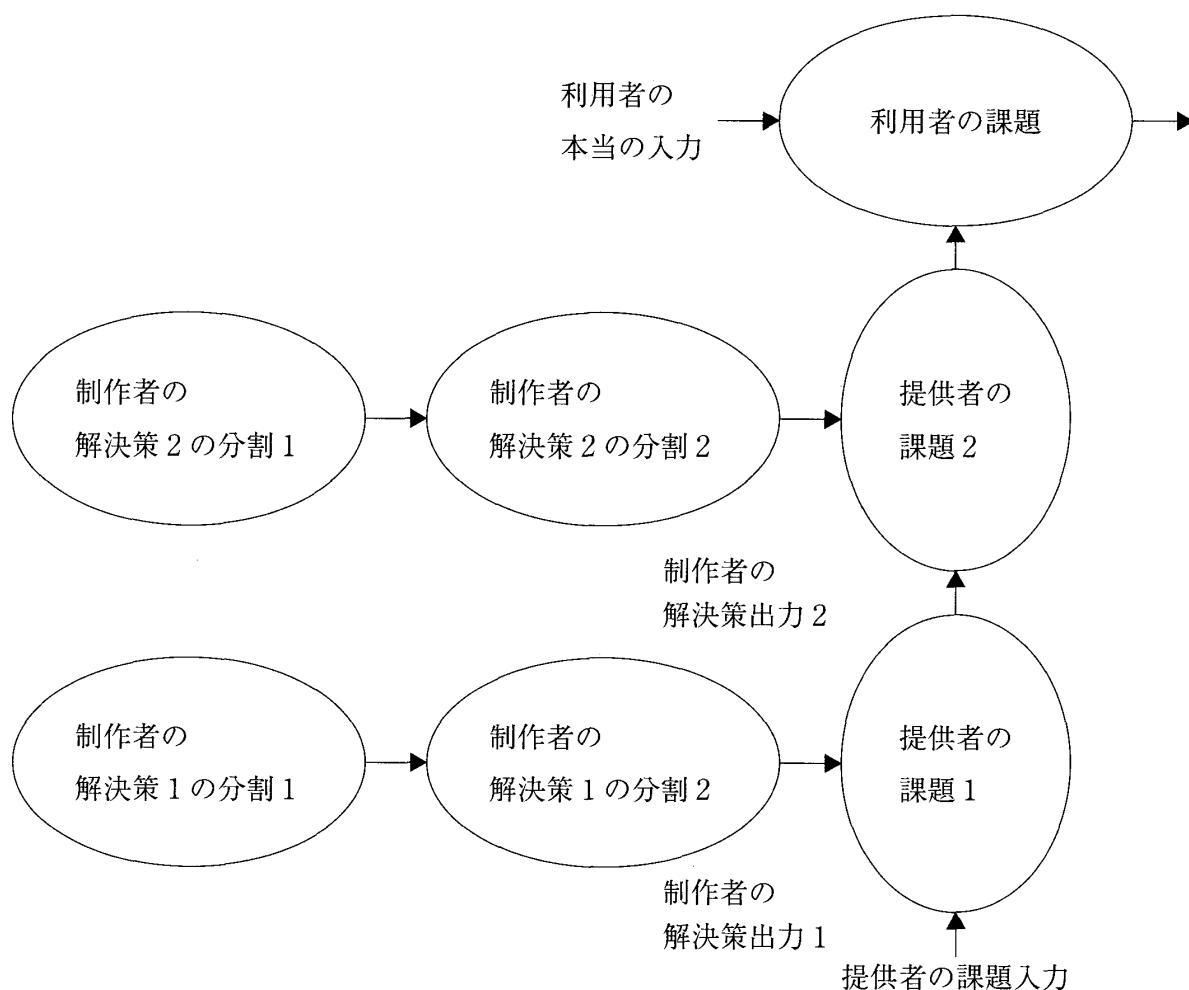


図14 携帯電話ホームページ制作者の解決策の分割

Ⅲ 考 察

本研究の目的は、携帯電話ホームページを利用する市民を支援するような携帯電話ホームページ制作の教育法について明確にすることである。このことについては前述したようにその目的を達成することができた。研究の課題は、最初に、携帯電話ホームページ未利用者を携帯電話ホームページ利用者にする携帯電話ホームページ利用システムの教育法を確定することである。次に、携帯電話ホームページ利用システムにシステムを提供する携帯電話ホームページ提供システムを確定した後、携帯電話ホームページ制作システムの教育法を確定することである。このことについては前述したように研究の課題を達成することができた。この研究の課題を達成する方法として、携帯電話ホームページ制作の教育法の手順を確定した。この手順は、第1段階で携帯電話ホームページ利用システムを確定した後、第2段階で携帯電話ホームページ制作システムを確定する。これは最初に携帯電話ホームページの利用者の利用方法を確定した後、次にその利用方法を踏まえた上で、携帯電話ホームページの制作者の制作方法を確定するということである。第1段階として利用者のことを考えるように教える方法は、今までの教育法には無い新しい教育法である。第1段階では、第1工程として携帯電話ホームページ利用者の目標を設定した後、第2工程として携帯電話ホームページ利用者の課題を確定する。これは、最初に利用者が何のために携帯電話ホームページを利用するのかという目標を設定した後、次にその目標を踏まえた上で、第2工程として利用者が携帯電話ホームページで何をするのかという課題を確定するということである。第2段階では、第1工程として携帯電話ホームページ提供者の課題を確定した後、第2工程として携帯電話ホームページ制作者の解決策を確定する。これは、最初に利用者が携帯電話ホームページを利用できるようにするためには、提供者が何をすればよいかという課題を確定した後、次にその課題を踏まえた上で、第2工程として製作者がどのようにして携帯電話ホームページを制作すればよいかという解決策を確定するということである。これが新しい携帯電話ホームページ制作の教育法の全体像である。大学教育は、ただ単に知識や技術を教育して経験を積ませればよいのではないのである。その仕事は何のためにしているのか、誰のためにしているのかという目標を設定することが大事なのである。この携帯電話ホームページ制作の教育法を大学の教員が習得することにより、その授業を受けた学生が卒業後、企業人として世の中の役に立つ携帯電話ホームページ利用システムを制作することができるようになるのである。現状では学生に対しての教育活動そのものを評価しようとしている教育法が行われているが、これからは学習目標に社会から要望される評価基準を設定して学生に対して教育の質を保証することにより、社会に対しての大学としての教育の成果を評価しようとする教育法が必要になるのではないだろうか。

付記

本研究は、平成15年度北海道浅井学園大学生涯学習研究所の研究助成を受けたものである。

参考文献

- 1) 山本正八、問題解決技法の研究、北海道浅井学園大学 生涯学習システム学部研究紀要 創刊号、2001
- 2) 山本正八、市町村における生涯学習センター設立のための基本計画書の策定手順、北海道浅井学園大学 生涯学習研究所研究紀要 生涯学習研究と実践 創刊号、2001
- 3) 山本正八、問題解決技法における目的の確定の研究、北海道浅井学園大学 生涯学習研究所研究紀要 生涯学習研究と実践 第2号、2002
- 4) 山本正八、問題解決技法における対象範囲の確定の研究、北海道浅井学園大学 生涯学習システム学部研究紀要第2号、2002
- 5) 山本正八、問題解決技法における課題の確定の研究、北海道浅井学園大学 生涯学習研究所研究紀要 生涯学習研究と実践 第3号、2002
- 6) 山本正八、携帯電話データベースシステムの構築と活用、コンピュータ利用教育協議会PCカンファレンス北海道2002論文集、2002
- 7) 山本正八、問題解決技法における解決策の確定の研究、北海道浅井学園大学 生涯学習研究所研究紀要 生涯学習研究と実践 第4号、2003
- 8) 山本正八、生涯学習社会におけるオブジェクト指向データベースと連動したブロードバンド対応ホームページの構築に関する研究、北海道浅井学園大学 生涯学習システム学部研究紀要 第3号、2003
- 9) 山本正八、問題解決技法、共同文化社、2003
- 10) 山本正八、要件定義技法の開発とその実践的な教育方法に関する研究、社団法人私立大学情報教育協会平成15年度大学情報化全国大会論文集、2003
- 11) 山本正八、学校教育における生涯学習の必要性、コンピュータ利用教育協議会PCカンファレンス北海道2003論文集、2003
- 12) 山本正八、北方圏の集会時におけるリレーショナルデータベースと連動した携帯電話ホームページを活用した双方向データ通信に関する研究、北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要生涯学習研究と実践第5号、2003
- 13) 山本正八、生涯学習支援システムの教育方法に関する研究、北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要 第4号、2004
- 14) 山本正八、学校教育に生涯学習を適用する方法に関する研究、北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要生涯学習研究と実践第6号、2004
- 15) 山本正八、地域コミュニティ電子メールシステムの開発、コンピュータ利用教育協議会PCカンファレンス北海道2004論文集、2004